



千葉さん（右）と岡村本部主婦の会事務局長

コロナ対策で現場訪問、自治体要請

渋谷 監督も対応に苦勞

対策厳しい状況の現場も

渋谷支部は7月1日、全国安全週間の取り組みの一環として渋谷区内の現場訪問行動を行ないました。労働災害防止の推進と意識の向上、コロナ禍での現場状況の調査をしました。事前に訪問先を検討

し、2班編成で午前・午後に行動。計8現場を訪問し、そのうち6現場で対話することが出来ました。班の責任者として行動した大鐘弘資常任執行委員に話を聞きました。

7月1日のこの週、渋谷区の公契約現場以外で、初めての訪問になる現場へアポなしで行っています。今回このような時期なのでけんもほろろにされるかと思いましたが、会えた監督さんとは全部長話になりました。というのはコロナの影響で、現場の監督の方が困っているのです。狭い現場事務所でも内部を仕切るなど、3密対策で苦勞している様子でした。現場の状況を調べた組合の資料を見せると関心を寄せてくれました。



聞き取りではコロナが話題の中心

いようにする工夫をしていますが。また顔認証と体温測定を一緒にする機械を導入している現場がありました。その現場では感染者数が厳しく

なってきた状況を受け、7月1日から37℃以上の体温の人は現場に入れないそうです。組合で他の現場の状況や、やり方が調べられたらまたお

伺いしましょうかと話すところ、ぜひ来てくださいと言われました。今回は労働安全のことが話題にならず、コロナ安全ばかりでした。



国交省のガイドラインも踏まえてコロナの感染拡大防止対策を確認

変えスムーズに懇談・安全パトロールができました。板橋支部では厚労省発文を利用しての取り組みは4年目となります。今年も、担当課から「新型コロナウイルスの関連もあるので、要請書を渡すくらいしかできないかもしれないよ」と言われていたのですが、どの現場でも、熱中症・新型コロナ対策にも話題が及び、現場での対応の工夫・苦勞など聞き取ることができました。特に新型コロナウイルス対策では、これまでにない衛生経費の負担増などで厳しい状況も報告されました。現場作業員の建退共の周知については、徹底しきれない現状があるようで、組合で建退共現場説明会ができることを提案し、パートナーシップ協定と合わせて検討を要請しました。

コロナで再訪を約束

一方で非常によく考えている現場もありました。喫煙所の天井をオープンにしているのです。喫煙するわけですから、マスクをしていないわけ、お互いに煙を吸い込まな

板橋 コロナで経費増 公共現場で聞きとり

【板橋・書記・森千恵子記】板橋支部では、労働安全週間の厚生労働省発文を利用して、7月7・8日の両日、公共工事

の現場訪問を行いました。事前に板橋区役所担当課に要請し、現場を紹介してもらった訪問のため、当日は大

り、子どもが家にいて生活費が多くなっているといった問題が上がってきました。若い役員は支部で会った時とか私に直接言ってくれ方もいますし、書記の井口さんの方に声かけがある場合もあります。今回はコロナの影響で役員会とか全く開けない状態になっていました。若い方たちは、LINEとかでつながる形が多く、

2、3年くらい前から子育て世代の会員が増えてきており、以前にも就学援助費とか、給食費の問題もありました。

若い役員は支部で会った時とか私に直接言ってくれ方もいますし、書記の井口さんの方に声かけがある場合もあります。今回はコロナの影響で役員会とか全く開けない状態になっていました。若い方たちは、LINEとかでつながる形が多く、

私も若い方とはLINEで連絡を取り合っており、そこでも声が上がってきました。今後、主婦の会で要望したいことなど検討しています。コロナ流行の前から、要望を検討していることがありました。子どもの医療費の問題で、現在は中学生までは医療費無料なのですが、高校生は入院費だけ無料となっていて、高校生はお金がかかるからと、受診を我慢する傾向がみられるので、考えてみようかと話合っています。

北・主婦の会 ひとり親家庭へ手当支給 会員の要望が実現

北支部では5月15日に行なった要請で、主婦の会が要望した「ひとり親家庭への児童手当として北区独自で5万円支給」が実現しました。北区では該当する家庭へ7月17日まで支給し、その旨の通知を出したそうです。

また、王子地区では歩道橋の下で煙草を吸う人がいるため煙臭く、汚れているのが気になるという、小さいお子さ

北支部主婦の会会長の千葉理恵さんに話を聞きました。10月のような経過でこの要望が出てきたのですか

主婦の会の役員の中にもお子さんが3人いるとか若い世代が増えていますので、今回

コロナの影響で役員会とか全く開けない状態になっていました。若い方たちは、LINEとかでつながる形が多く、

私も若い方とはLINEで連絡を取り合っており、そこでも声が上がってきました。今後、主婦の会で要望したいことなど検討しています。コロナ流行の前から、要望を検討していることがありました。子どもの医療費の問題で、現在は中学生までは医療費無料なのですが、高校生は入院費だけ無料となっていて、高校生はお金がかかるからと、受診を我慢する傾向がみられるので、考えてみようかと話合っています。

各支部からコロナ対策で要請書を提出した自治体一覧 (7月13日現在)

- 武蔵村山市、東大和市、西東京市、上野原市、大月市、都留市、道志村、品川区、小平市、東村山市、墨田区、板橋区、清瀬市、東久留米市、葛飾区、荒川区、小金井市、新宿区、台東区、港区、三鷹市、武蔵野市、調布市、杉並区、足立区、北区、練馬区、八王子市、狛江市、目黒区、江東区、大田区、あきる野市、羽村市、青梅市、瑞穂町、日の出町、文京区、渋谷区、中野区、日野市、江戸川区

自治体交渉の取り組みの成果

品川支部 (品川区)	総額135億円規模の全住民に対する3万円の支給(しながわ活力応援給付金)	台東支部 (台東区)	台東区経営持続化特別資金融資あっせんとして500万円を融資上限額とする制度を創設。
葛飾支部 (葛飾区)	国や都とは別建ての対策を検討。雇用と事業主の支援をハローワークや都の機関と連携・協力して支援を強める。	北支部 (北区)	ひとり親家庭への児童手当として独自で5万円支給。
清瀬久留米支部 (清瀬市、東久留米市)	清瀬市は10月まで全世帯へゴミ袋の無料配布。東久留米市は信用保証協会の保証付き融資を受けたなどの条件を満たす方を対象に一律5万円を給付。	※足立支部、板橋支部、西多摩支部(山梨)については、けんせつ6月20日号に掲載済みです。また自治体対応策の一覧を東京土建のホームページで紹介しています。	

